

富士宮の自然史年表

一七〇〇万年前～一五〇〇年前

1700万～1200万年前	太平洋プレートの沈み込みによってフィリピン海プレート東縁部に海底火山の群れが誕生する(古い海底火山の時代)。
1400万～200万年前	上記の海底火山群が次々と本州に付加する一方で、それらの間に生まれたトラフを厚い堆積物が埋めていく(富士川層群の時代)。
200万～50万年前	伊豆半島の衝突によって既存の地層や、この時期に堆積した地層が大きく褶曲・変形するとともに堆積環境が海から陸へと変化していき、岩淵火山の活動も起きる(庵原層群の時代)。
50万～10万年前	富士宮全域が陸地となり、周辺では先小御岳・小御岳・愛鷹山などの火山活動が生じる。
10万～1万7000年前	古富士火山が誕生・成長し、富士宮周辺には土石流によって火山麓扇状地が発達する。2万年前には南西側に大規模な山体崩壊が起き、田貫湖岩屑なだれが堆積する。富士川河口断層帯の活動が始まり、星山・羽鮒丘陵が隆起開始。そこに旧石器時代の人々が暮らす。
1万7000～8000年前	田貫湖岩屑なだれの崩壊谷の中から新富士火山が誕生・成長し、富士宮周辺には何度も溶岩が流れ下り、富士川に達する。
1万7000年前	芝川溶岩流が芝川沿いを流れ下り、富士川に達する。
1万4000～1万3500年前	村山周辺で爆発的な割れ目噴火が生じ、村山スコリアが降り積もる。その前後、大鹿窪遺跡に人々が暮らす。
1万年前	最終氷期が終わって地球全体が温暖な気候へと向かう。
8000年前	犬涼み山溶岩流が流れ下り、人穴の溶岩トンネルがつくられる。
8000年前～古墳時代	新富士火山の噴火と成長が続き、時折富士宮の周辺に溶岩流が到達するとともに、土石流によって火山麓扇状地が発達する。この時期を通じて各地の遺跡に人々が暮らす。
5500年前	二子山が噴火して溶岩流が外神付近に達する。
3150年前	山頂付近の爆発的噴火によって大沢スコリアが降り積もる。
2900年前	古富士火山の古い峰が御殿場側に山体崩壊し、富士山が単一峰となる。
1500年前	青沢溶岩流が流れ下り、山宮浅間神社遷拝所の地形ができる。

781年	南山腹の噴火で籙子山が誕生する。
864年	貞観噴火で青木ヶ原溶岩流が流れ、本栖湖・精進湖・西湖が現在の形となる。
11世紀	不動沢・日沢割れ目噴火で富士宮口登山道付近の地形がほぼ現在の形となる。
1331年	大地震で入山瀬にあった滝泉寺の大伽藍が崩壊したと伝えられる。
1707年	宝永地震と翌日の大余震で富士宮が大きな被害を受けるとともに白鳥山が崩壊して長貫村が埋まり、その結果として富士川の河道閉塞とその決壊による洪水が起きる。
1707年	宝永地震の49日後から始まった宝永噴火によって宝永火口と宝永山が誕生し、その様子が富士宮から目撃される。
1834年	富士宮も含む富士山麓の広域で大規模な雪代災害(天保雪代)が発生する。
1854年	安政東海地震が発生して再び白鳥山が崩壊し、富士川の河道閉塞とその決壊が起きる。
1960年代	大沢崩れが国の直轄砂防地となり、砂防対策が進められる。
1974年	潤井川の洪水対策の一環として星山放水路が完成する。
2000年	秋から翌年初夏にかけて富士山の地下深部で低周波地震活動が活発化し、それがきっかけとなって2004年に富士山のハザードマップが整備される。
2011年3月15日	静岡県東部の地震で震度6強が記録され、富士宮市街地が被害を受ける。この地震がきっかけとなって2015年に富士山火山広域避難計画が策定され、2021年には富士山ハザードマップの改定版が完成する。

第一編

第一章第二節

- ・荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編二〇〇七『富士火山』(山梨県環境科学研究所)
- ・日本地質学会編二〇〇六『日本地方地質誌四中部地方』(朝倉書店)
- ・藤岡換太郎二〇一八『フォッサマグナ日本列島を分断する巨大地溝の正体』(講談社)
- ・藤岡換太郎・平田大二二〇一四『日本海の拡大と伊豆弧の衝突―神奈川の大地の生い立ち』(有隣堂)

第一章第三節

- ・阿部勇治・柴正博・宮澤市郎二〇〇一「庵原層群から産出したカズサジカの枝角化石」(『海・人・自然(東海大博研報)』第三号、六三―七五頁)
- ・尾崎正紀・水野清秀・佐藤智之二〇一六「五万分の一富士川河口断層帯及び周辺地域地質編纂図説明書」(『海陸シームレス地質情報集 駿河湾北部沿岸域 海陸シームレス地質図S―五』一―五七頁)
- ・狩野謙一・小田原啓・山本玄珠・伊藤谷生二〇一九「富士川河口断層帯、星山丘陵周辺の1Ma以降のテクトニクス」(『静岡大学地球科学報告』四六巻、一九―四九頁)
- ・柴正博・阿部勇治・福田美和・横山謙二・堀内伸太郎・石川裕一・矢部英生・井上雅博・駿河湾団体研究グループ一九九二「静岡県富士宮市沼久保の富士川河床に分布する礫シルト層(更新統)の層相と化石について」(『自然環境科学研究』第五号、二一―三二頁)
- ・柴正博・大久保正寿・笠原茂・山本玄珠・小林滋・駿河湾団体研究グループ一九九〇「静岡県富士川下流域の更新統、庵原層群の層序と構造」(『地球科学』第四四巻第四号、二〇五―二二三頁)
- ・杉山雄一・下川浩一・一九八二「静岡県庵原地域の地質構造と入山断層系」(『地質調査所月報』第三三巻第六号、二九三―三二〇頁)
- ・横山謙二・柴正博・小泉勇貴・宮澤市郎二〇一三「静岡県富士市南松野に分布する中部更新統庵原層群岩淵層から産したニシン科とカタクチイシ科の魚類化石」(『東海自然誌(静岡県自然史研究報告)』第六号、一九―二五頁)

第一章第四節

- ・荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編二〇〇七『富士火山』(山梨県環境科学研究所)
 - ・岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編二〇二〇『静岡の大規模自然災害の科学』(静岡新聞社)
 - ・小山真人二〇〇九『富士山噴火とハザードマップ―宝永噴火の一六日間―』(古今書院)
 - ・小山真人二〇一三『富士山大自然への道案内』(岩波新書)
 - ・高田亮・山元孝広・石塚吉浩・中野俊二〇一六『富士山山地質図(第二版)及び説明書』(産業技術総合研究所地質調査総合センター)
 - ・福原達雄・和田秀樹一九九七「静岡大学C年代データ集1」(『静岡大学地球科学研究報告』二四巻、一五―二六頁)
 - ・富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会二〇二一「富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会報告書」
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html>
 - ・富士宮市教育委員会二〇一八『史跡大鹿窪遺跡発掘調査総括報告書』
 - ・富士宮市教育委員会二〇二二a『史跡大鹿窪遺跡発掘調査報告書―史跡整備事業に伴う再発掘調査―』
 - ・富士宮市教育委員会二〇二二b『史跡大鹿窪遺跡の歴史と環境令和三年度埋蔵文化財シンポジウム事業発表要旨集』
- 第一章第五節
- ・今泉俊文・宮内崇裕・堤浩之・中田高編二〇一八『活断層詳細デジタルマップ新編』(東京大学出版会)
 - ・尾崎正紀・水野清秀・佐藤智之二〇一六「五万分の一富士川河口断層帯及び周辺地域地質編纂図説明書」(『海陸シームレス地質情報集 駿河湾北部沿岸域 海陸シームレス地質図S―五』一―五七頁)
 - ・狩野謙一・小田原啓・山本玄珠・伊藤谷生二〇一九「富士川河口断層帯、星山丘陵周辺の1Ma以降のテクトニクス」(『静岡大学地球科学報告』四六巻、一九―四九頁)
 - ・産業技術総合研究所「活断層データベース」<https://bank.gsi.jp/activefault/>
 - ・地震調査研究推進本部地震調査委員会二〇一〇「富士川河口断層帯の長期評価(一部改訂)」

http://ishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/43_fujikawa.pdf
・丸山正・斎藤勝二〇〇七『富士川河口断層帯の古地震調査』(『活断層・古地震研究報告』第七号、一二九―一五五頁)

第一章第六節

- ・入江芳之助一九七〇『麓金山小史』(『駿河』第一五号)
- ・尾崎正紀二〇一八『第二章資源地質』(産業技術総合研究所地質調査総合センター『地域地質研究報告 身延地域の地質』一四七―一四八頁)
- ・国土交通省二〇〇五『国土数値情報』
https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W09-v2_2.html
- ・国土地理院二〇一七『基盤地図情報』
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>
- ・静岡県二〇一三『富士山の豊かな地下水を未来に引き継ぐために』(静岡県環境衛生科学研究所)
- ・静岡県二〇一〇～二〇一二『富士山地下水プロジェクト研究 研究資料』(静岡県環境衛生科学研究所)
- ・高田亮・山元孝広・石塚吉浩・中野俊二〇一六『富士山火山地質図(第二版)及び説明書』(産業技術総合研究所地質調査総合センター)
- ・土隆一九九三『柿田川湧水のメカニズムと小浜池』(三島市小浜池湛水調査会『三島市小浜池湛水調査報告書(その3)』二一―二五頁)
- ・土隆二〇〇一『静岡県の地形と地質―静岡県地質図1/20万(二〇〇一年改訂版)説明書―』(内外地図)
- ・土隆二〇〇四『富士山の地下水涵養量について』(『地下水技術』四六巻六号、一一―一〇頁)
- ・富士宮市一九九五『西富士地域の地形・地質について』(『富士宮市の自然第二次富士宮市域自然調査報告書』一七頁)
- ・安原正也・風早康平・丸井敦尚二〇〇七『富士山の地下水とその涵養プロセスについて』(『富士火山』山梨県環境科学研究所、三八九―四〇五頁)
- ・山口稔一九八一『麓金山と富士山御林守』(『駿河』第三四・三五号)
- ・Yoshimoto, Mitsuhiro, Fujii, Toshiyugu, Kaneko, Takayuki, Yasuda, Atsushi, Nakada, Setsuya, Matsumoto, Akikazu(2010). Evolution of Mount Fuji, Japan: Inference from drilling into the subaerial oldest volcano, pre-Komitake Island Arc, 19, 470–488

第二章第一節～第三節

- ・稲葉和弘・横木修治・佐藤洋・中田晃・工藤貴彦・石森啓之・熊谷茂編二〇〇三『富士山測候所』(『地質ニュース』第五九一号)
https://www.gsj.jp/data/chishitsunews/03_11_01.pdf
- ・気象庁ウェブサイト <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・富士宮市二〇二二『富士宮市の自然 第五次富士宮市域自然調査研究報告書』

第三章第一節～第三節

- ・下田路子二〇一三『富士山麓の水草』(静岡県文化財団『植物の富士登山』)
- ・富士宮市二〇二二『富士宮市の自然 第五次富士宮市域自然調査研究報告書』
- ・増沢武弘一九九一『富士山の極限環境に生きる植物』(建設省中部地方建設局富士砂防工事事務所)
- ・増沢武弘二〇〇〇『フジアザミ』(静岡県)
- ・増沢武弘二〇〇二『富士山頂の自然』(静岡県)
- ・増沢武弘二〇一三『富士山―自然環境と植生』(静岡県、六三一―一八一頁)
- ・渡邊定元二〇〇二『富士山の植物』(国土交通省地方整備局富士砂防事務所『富士山の自然と社会』)

第四章第一節

- ・岸本年郎二〇一九『富士山の生物多様性の特徴とその価値』(『環境考古学』と富士山』第三号、三四―四三頁)
- ・国立公園協会編一九七二『富士山富士山総合学術調査報告書』
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課編二〇一九『まもりたい静岡県の野生生物二〇一九―静岡県レッドデータブック―動物編』
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課二〇二〇『静岡県野生生物目録二〇二〇』
- ・富士宮市一九九五『富士宮市の自然 第二次富士宮市域自然調査研究報告書』

第四章第二節

- ・阿部永監修二〇〇五『日本の哺乳類改訂版』（東海大学出版会）
- ・内野区誌編纂委員会二〇二二『内野区誌』
- ・渡井一信一九九一「富士の巻狩りと猪土手」（『月の輪』第六号）

第四章第三節

- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課編二〇一九『まもりたい静岡県の野生生物二〇一九―静岡県レッドデータブック―動物編』
- ・富士宮市二〇二二『富士宮市の自然第五次富士宮市域自然調査研究報告書』

第四章第四節・第五節

- ・秋田喜憲一九九六「ハコネサンショウウオ」（『日本動物大百科五 両生類・爬虫類・軟骨魚類』平凡社、二〇〇頁）
- ・河端政一 一九七二「富士山地域の爬虫類・両生類」（富士急行『富士山―富士山総合学術調査報告書―』）
- ・鹿倉知美・長美夫一九八八「爬虫類 両生類」（富士宮市『富士宮市の自然 第一次富士宮市域自然調査研究報告書』）
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課編二〇一九『まもりたい静岡県の野生生物二〇一九―静岡県レッドデータブック―動物編』
- ・湯本光子二〇〇〇「山梨県の両生類の分布」（『千葉中央博自然誌研究報告 特別号』）

第四章第六節

- ・板井隆彦一九八二『静岡県の淡水魚類』（第一法規）
- ・金川直幸・小林正明一九九八「ドンコの新分布地」（『やい』一四号、三九―四〇頁）
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課編二〇一九『まもりたい静岡県の野生生物二〇一九―静岡県レッドデータブック―動物編』
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課二〇二〇『静岡県野生生物目録二〇二〇』
- ・芝川町誌編さん委員会一九七三『芝川町誌』

- ・中坊徹次編二〇一三『日本産魚類検索全種の同定第三版』（東海大学出版会）

- ・日本魚類学会自然保護委員会編二〇一三『見えない脅威“国内外来魚”どう守る地域の生物多様性』（東海大学出版会）

- ・富士宮市一九八八『富士宮市の自然 第一次富士宮市域自然調査研究報告書』
- ・富士宮市一九九五『富士宮市の自然 第二次富士宮市域自然調査研究報告書』

- ・富士宮市二〇〇五『富士宮市の自然 第三次富士宮市域自然調査研究報告書』
- ・松沢陽士・瀬能宏二〇〇八『日本の外来魚ガイド』（文一総合出版）

第四章第七節

- ・石川均二〇一八「南部フォッサマグナ地域のバツタ目昆虫」（『昆虫と自然』五三巻四号、一七―二〇頁）
- ・岸本年郎二〇一五「世界遺産と富士山と昆虫」（『昆虫と自然』五〇巻五号、一三一―一五頁）
- ・国立公園協会編一九七二『富士山 富士山総合学術調査報告書』
- ・篠田授樹二〇一四「富士山の昆虫相」（『昆虫と自然』五三巻四号、一七一―二〇頁）
- ・砂村栄力二〇二二「アギトアリの分布拡大」（『昆虫と自然』五七巻九号、九―一二頁）
- ・清邦彦一九八八『富士山にすめなかつた蝶たち』（築地書館）
- ・高橋真弓一九七九『チョウ―富士川から日本列島へ』（築地書館）
- ・富士宮市二〇一四『富士宮市の自然 第四次富士宮市域自然調査研究報告書』

第二編

第一章第一節 第六節

- ・植松章八一九七一「月の輪平遺跡のあとさき」（富士宮市史編纂委員会『富士宮市史 上巻』）
- ・植松章八一九九三「富士宮市の遺跡と文化―分布調査と発掘調査で何がわ

- かったか」(富士宮市教育委員会『富士宮市の遺跡』)
 ・大久保俊昭一九八六「戦国大名今川氏の宗教政策―富士大宮浅間神社を中心にして」(『地方史静岡』一四号)
 ・小野昭二〇〇七『旧石器時代の日本列島と社会』(同成社)
 ・小野真一編一九七五『千居』(加藤学園考古学研究所)
 ・小野真一・唐紙一修・秋本真澄・佐野文孝一九七二『駿河小塚―静岡県における先石器文化の研究』(静岡県芝川町教育委員会)
 ・小林謙一二〇〇六「関東地方縄紋時代後期の実年代」(『考古学と自然科学』第五四号、一三―三三頁)
 ・小林謙一二〇一七『縄紋時代の実年代』(同成社)
 ・小林謙一二〇一九『縄紋時代の実年代講座』(同成社)
 ・小林謙一・尾寄第真・大森貴幸・米田穰二〇二二「大鹿窪遺跡令和二年度調査出土炭化物の炭素一四年代測定」(富士宮市教育委員会『史跡大鹿窪遺跡発掘調査報告書』)
 ・小林淳・青木かおり・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦二〇二〇「伊豆諸島、新島火山宮塚山イベント以降のテフラ層序と噴火史」(『火山』第六五巻第二号、二一―四〇頁)
 ・小松隆史二〇〇五「中部高地の縄文前期集落の展開」(『金大考古』五〇号)
 ・静岡県一九九〇『静岡県史資料編1 考古1』
 ・静岡県一九九四『静岡県史通史編1 原始・古代』
 ・静岡県文化財団二〇二二『湧水く富士山に消える二四億トンの水の行方』
 ・芝川町教育委員会一九八一『駿河』小塚遺跡第二次調査報告書
 ・芝川町教育委員会一九九五a『小塚遺跡(第三次・第四次)』
 ・芝川町教育委員会一九九五b『小塚遺跡(第五次)』
 ・芝川町教育委員会二〇〇三『静岡県富士郡芝川町大鹿窪遺跡窪B遺跡(遺構編)』
 ・芝川町教育委員会二〇〇六『静岡県富士郡芝川町大鹿窪遺跡窪B遺跡(遺物編)』
 ・下岡順直二〇二二「遺跡形成過程復元のための遺跡堆積物のルミネッサン年代測定」(富士宮市教育委員会『史跡大鹿窪遺跡発掘調査報告書―史跡整備事業に伴う再発掘調査―』)
 ・菅原哲文二〇一七「最上川中・下流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」(公益財団法人山形県埋蔵文化財センター『研究紀要』第九号)
 ・杉原重雄・福岡孝明・大川原竜二二〇〇一「伊豆諸島神津島天上山と新島向山の噴火活動」(『地学雑誌』第一一〇巻第一号、九四―一〇五頁)
 ・高田亮・山元孝広・石塚吉浩・中野俊二〇一六「富士火山地質図(第二版)及び説明書」(産業技術総合研究所地質調査総合センター)
 ・堤隆二〇二二『列島の考古学』(河出書房新社)
 ・中日本高速道路株式会社東京支社・財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所二〇一〇「下高原遺跡 第二東名土1・2地点他」
 ・中村哲也二〇一三「八戸市南部における縄文遺跡の分布とその変遷」(『青森県立郷土館研究紀要』第三七号)
 ・中村雄紀二〇一一「静岡県東部における後期旧石器時代の石器群と遺跡分布の変遷」(『東京大学考古学研究室研究紀要』二五)
 ・日本旧石器学会二〇一〇『日本列島の旧石器時代遺跡―日本旧石器(先石器・岩宿)時代遺跡データベース』
 ・日本第四紀学会・小野昭・春成秀爾・小田静夫編一九九二『図解・日本の人類遺跡』(東京大学出版会)
 ・日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会一九八二『代官屋敷遺跡』
 ・日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会一九八三『若宮遺跡』
 ・葉室和親一九七七「伊豆半島大室山天城側火山群地久保中央火口丘降下スコリア、カワゴ平火砕流のC年代」(『火山』第二集)第二巻第四号、二七七―二七八頁)
 ・藤尾慎一郎二〇一四「西日本の弥生稲作開始年代」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第一八三集、一一三―一四三頁)
 ・藤尾慎一郎二〇一五『弥生時代の歴史』(講談社)
 ・藤尾慎一郎二〇二二『日本の先史時代 旧石器・縄文・弥生・古墳時代を讀みなおす』(中公新書)
 ・藤尾慎一郎・今村峯雄・西村豊弘二〇〇五「弥生時代の開始年代―AMS―炭素一四年代測定による高精度年代体系の構築」(『総研大文化科学研究』創刊号、七三―九六頁)
 ・富士宮市史編纂委員会一九七一『富士宮市史上巻』
 ・富士宮市教育委員会一九八一a『月の輪遺跡群』
 ・富士宮市教育委員会一九八一b『滝ノ上遺跡』
 ・富士宮市教育委員会一九八九a『小松原A遺跡』
 ・富士宮市教育委員会一九八九b『洪沢遺跡』
 ・富士宮市教育委員会一九九一『丸ヶ谷戸遺跡』

- ・富士宮市教育委員会一九九三『富士宮市の遺跡―富士宮市遺跡詳細分布調査報告書―』
 - ・富士宮市教育委員会一九九七『滝戸遺跡』
 - ・富士宮市教育委員会二〇〇一 a 『箕輪 A 遺跡』
 - ・富士宮市教育委員会二〇〇一 b 『丸ヶ谷戸遺跡 II』
 - ・富士宮市教育委員会二〇〇三『富士宮市の遺跡 II―富士宮市遺跡詳細分布調査報告書 II―』
 - ・富士宮市教育委員会二〇〇七『滝戸遺跡 II』
 - ・富士宮市教育委員会二〇〇八『富士宮市の遺跡 IV』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一〇『代官屋敷遺跡 II』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一三 a 『富士宮市遺跡地図 第四版』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一三 b 『富士宮市内遺跡分布調査報告書』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一三 c 『丸ヶ谷戸遺跡 III』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一四『元富士大宮司館跡 II』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一七『富士宮市の遺跡 VI 箕輪 A 遺跡・大室遺跡・柚野辻遺跡』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一八 a 『史跡大鹿窪遺跡発掘調査総括報告書』
 - ・富士宮市教育委員会二〇一八 b 『図録富士宮市の遺跡』
 - ・富士宮市教育委員会二〇二一『富士宮市の遺跡 VII 滝戸遺跡第 IV 次調査 甲石遺跡 稲干場遺跡 精進川神田遺跡』
 - ・富士宮市教育委員会二〇二二 a 『史跡大鹿窪遺跡発掘調査報告書―史跡整備事業に伴う再発掘調査―』
 - ・富士宮市教育委員会二〇二二 b 『史跡大鹿窪遺跡の歴史と環境 令和三年度埋蔵文化財シンポジウム事業発表要旨集』
 - ・藤村翔二〇一七『浮島沼西岸・沖田遺跡の調査からみた湖沼利用の推移―(『富士山かぐや姫ミュージアム館報』第三二号、四一―五四頁)』
 - ・文化庁文化財部記念物課二〇一七『埋蔵文化財関係統計資料―平成二八年度―』
 - ・町田洋一九六四『Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史』(『地学雑誌』第七三巻、一九三―三〇八頁、三三七―三五〇頁)
 - ・町田洋一九九〇『小林国夫氏以後のテフロクロノロジー―とくに御岳第一軽石層を中心に―』(小林国夫教授論文選集刊行会編『小林国夫教授論文選集』六四九―六六二頁)
 - ・町田洋二〇〇七『第四紀テフラからみた富士山の成り立ち―研究のあゆみ―』(荒巻重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編『富士火山』山梨県環境科学研究所、二九―四四頁)
 - ・町田洋・新井房雄一九七六『広域に分布する火山灰』(『科学』第四六巻第五号、三三九―三四七頁)
 - ・町田洋・新井房雄一九七八『南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ―アカホヤ火山灰―』(『第四紀研究』第一七巻第三号、一四三―一六三頁)
 - ・松原彰子一九九二『静岡県浮島ヶ原・雌鹿塚遺跡における自然環境と人間活動の変遷』(『第四紀研究』三一巻四号、二二―二二七頁)
 - ・宮地直道・廣野三郎一九二九『浅間神社の歴史』(古今書院、一九七三年に名著出版より復刊)
 - ・三好元樹二〇一〇『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代 C 年代の集成と検討』(『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』第一六号)
 - ・三好元樹二〇一一『静岡県における縄文時代の C 年代の集成と検討』(『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』第一七号)
 - ・山崎晴雄一九七八『立川断層とその第四紀後期の運動』(『第四紀研究』第一六巻第一号、二三一―二四六頁)
 - ・山田康弘二〇一九『縄文時代の歴史』(講談社現代新書)
- 第二章 第一節**
- ・岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編二〇二〇『静岡の大規模自然災害の科学』(静岡新聞社)
 - ・宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子二〇一三『日本被害地震総覧五九九―二〇一二』(東京大学出版会)
 - ・国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所編二〇〇二『富士山の自然と社会』
 - ・静岡県一九九六『静岡県史別編 2 自然災害誌』
 - ・芝川町誌編さん委員会一九七三『芝川町誌』
 - ・都司嘉宣・佐々木久彦一九九六『中世のさまざまな自然災害』(『静岡県史別編 2 自然災害誌』八三一―一〇一頁)
 - ・富士市史編纂委員会一九八四『鷹岡町史』
 - ・富士宮市『富士宮市の災害記録』
<http://www.city.fujinomiya.lg.jp/sp/citizen/visuf8000000h4kv-at/visuf800000h51q.pdf>
 - ・富士宮市史編纂委員会一九八六『富士宮市史 下巻』
 - ・若林淳之 一九九六『災害記』の心』(『静岡県史 別編 2 自然災害誌』)

七三九―七五七頁)

・若林淳之 二〇〇二「富士山土石流への挑戦の歴史―大沢崩れと人々の暮らしを中心に―」(国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所編『富士山の自然と社会』三三二―三四二頁)

・和田秀樹・鮫島輝彦・丸山則義・山田治 一九九〇「白糸神代杉」(富士宮市教育委員会『富士宮市立郷土資料館調査報告書 第一号』)

第二章第二節

・岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編 二〇二〇『静岡の大規模自然災害の科学』(静岡新聞社)

・宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子 二〇一三『日本被害地震総覧 五九九―二〇一二』(東京大学出版会)

・小山真人 二〇〇九『富士山噴火とハザードマップ―宝永噴火の一六日間―』(古今書院)

・佐藤孝之・杉森玲子・荒木裕行・林晃弘 二〇一八「嘉永七年「恒例関東献上使日記」と安政東海地震」(『東京大学史料編纂所研究紀要』第二八号、一八六―二〇四頁)

・地震調査研究推進本部 二〇〇九年八月一日駿河湾の地震活動の評価
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/09sep_suruga-wan/index.htm

・地震調査研究推進本部 二〇一一年三月―五日静岡県東部の地震の評価
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/11mar_shizuoka/index.htm

・地震調査研究推進本部「糸魚川―静岡構造線断層帯」
https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f041_042_044_jishizu/

・地震調査研究推進本部「塩沢断層帯・平山―松田北断層帯・国府津―松田断層帯(神縄・国府津―松田断層帯)」
https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f036_shiozawa-hirayama-kozu/

・地震調査研究推進本部「曾根丘陵断層帯」
https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f104_sone-kyuryo/

・地震調査研究推進本部「富士川河口断層帯」
https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f043_fujikawa/

・地震調査研究推進本部「身延断層」

https://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/reg_kanto_16_minobu/

・静岡県 一九九六『静岡県史別編2 自然災害誌』

・武村雅之 一九九九「日記に記された大正関東地震の余震活動とその影響」(『歴史地震』第一五号、二〇九―二二四頁)

・中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 二〇〇五「一八五四 安政東海地震・安政南海地震」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunokeishou/rep/1854_ansei_toukai_nankai_jishin/index.html

・中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 二〇〇六「一九二三 関東大震災」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/index.html

・中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 二〇〇七「一九四四 東南海地震・一九四五 三河地震」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunokeishou/rep/1944_tounankai_jishin/index.html

・中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 二〇一四「二七〇七 宝永地震」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunokeishou/rep/1707_houeijishin/index.html

・富士宮市教育委員会 一九九九『駿州大宮町横関本家 袖日記(七番)』

・富士宮市史編纂委員会 一九八六『富士宮市史下巻』

・静岡大学総合防災センター 二〇一二「航空計測等業務報告書 航空レーザ計

第二章第三節

・安間荘 一九八七「事例から見た地震による大規模崩壊とその予測に関する研究」(東海大学学位論文二〇五)

・国土交通省河川局 二〇〇二「富士川水系の流域及び河川の概要(案)」

・小林昭夫・弘瀬冬樹・堀川晴央・平田賢治・中西一郎 二〇一七「一七〇七年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料―飯作家『大地震富士山焼之事覚書』の調査と翻刻―」(『地震 第二輯』七〇巻、二二一―二三二頁)

・静岡県 一九九六『災害記』の心(『静岡県史別編2 自然災害誌』七四五―七四八頁)

測(計測密度1m×1m以上)

- ・芝川町誌編さん委員会編一九七三『芝川町誌』四七―四八頁
- ・田中収一九八二『東海地震による富士川河岸白鳥山崩壊の危険性』(『日本地質学会学術大会講演要旨』八九)
- ・中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳浩編二〇〇〇『地震砂防』(古今書院一九〇)
- ・中村操・松浦律子二〇一八『宝永四年十月五日の地震の被害とその震源の推定』(『歴史地震』第三三号、七九―九二頁)
- ・服部健太郎・中西一郎二〇一七『二七〇七年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料―駿河湾北岸域における宝永地震翌朝に感じた大きな余震及び白鳥山の崩壊を記した行方不明史料の発見と既刊史料集に掲載された翻刻文の検討』(『地震第二輯』七〇巻、四一―五五頁)
- ・服部健太郎・中西一郎二〇一八『二七〇七年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料(三)―元禄地震・宝永地震・宝永富士山を記した「当山本宮記」―』(『地震 第二輯』七一巻、一三二―一三七頁)

第二章第四節

- ・伊藤誠記・阿部聡・田端元二〇〇五『大沢崩れにおける新たな工法検討』(『砂防学会誌』五八巻二号、三八―四二頁)
- ・岩塚守公・町田洋一九六二『富士山大沢の発達―火山の谷の発達と侵蝕機構についての基礎的研究』(『地学雑誌』第七一卷四号、一四三―一五八頁)
- ・加藤隆弘一九八九『富士山大沢崩れ』(『砂防学会誌』四一卷六号、三四―三六頁)
- ・建設省砂防部砂防課一九六八『大沢崩れとその対策』(『建設月報』二二巻一号、六五―六九頁)
- ・建設省土木研究所地すべり対策室一九七二『富士山大沢くずれ対策工事』(『建設月報』二五巻一〇号、三七―三八頁)
- ・建設省富士砂防工事事務所一九九八『富士砂防だより』第二〇号
- ・小河駿雄一九六三『富士山大沢崩れ』(『土木学会誌』四八巻三号、四一―八頁)
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所二〇〇一『ふじあざみ』第三一号
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇一〇『ふじあざみ』第七六号
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇一五『ふじあざみ』第九四号

号

- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇二一『ふじあざみ』第一一八号
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇二二『大沢崩れの現状』
<https://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/bosai/bosaikatudo/bosatrekisi-genjyou.html>
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇二二『調査工事・調査状況』
<https://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/bosai/bosaikouji/katudo-chosah.html>
- ・国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所二〇二二『土石流の映像』
https://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/movies/20210322_1407.mp4
- ・静岡県一九五九『富士山大沢崩対策昭和三三年度委託調査結果報告書Ⅰ』
- ・静岡県一九六一『富士山大沢崩対策昭和三三年度委託調査結果報告書Ⅲ』
- ・静岡新聞(昭和四二年五月二六日朝刊、同六月一七日朝刊、昭和四七年五月三日朝刊、同五月六日朝刊、同六月九日朝刊、同年六月一〇日夕刊、同七月一二日夕刊、同七月一三日朝刊、令和三年八月二八日朝刊)
- ・多々内順二一九七〇『富士山大沢崩れにとりくむ』(『建設月報』二三巻九号、二八―三七頁)
- ・中部地方建設局富士砂防事務所一九八四『富士山大沢崩れに挑む砂防事業―源頭部調査工事を中心として』(『建設月報』三七巻九号、一〇〇―一〇四頁)
- ・花岡正明・富田陽子・伊藤誠記二〇〇七『大沢崩れと富士山の土石流』(『富士火山』山梨県環境科学研究所、四〇七―四二五頁)
- ・星野和彦・時田和廣・石田勝志・中筋章人一九九五『富士山大沢崩れの変遷状況と崩壊特性』(『第四四回砂防学会研究発表会概要集』二四一―二四四頁)

第二章第五節

- ・富士宮市教育委員会二〇一四『旧上野村役場文書』
- ・富士宮市教育委員会二〇一八『旧北山村役場文書』
- ・富士宮市史編纂委員会一九八六『富士宮市史 下巻』
- ・若林淳之二〇〇二『用水の確保と開発』(国土交通省地方整備局富士砂防事務所編『富士山の自然と社会』)

第二章第六節

・伊藤彰・渡邊雅之・神谷貴文・大山康一・村中康秀二〇一四「静岡県東部の豊富な水資源を活用したマイクロ水量発電に関する研究―地産地消エネルギーの普及促進に向けて―」（静岡県環境衛生科学研究報告）五七号、一―五頁）

・内田洋平・與田佑季・藤井光・宮本重信・吉岡真弓二〇一〇「地中熱利用適地の選定方法その1 地下水流動・熱輸送解析を用いた地中熱利用適地マップの作成」（『日本地熱学会誌』三二巻四号、二二九―二三九頁）

・環境省水・大気環境局二〇一八「地中熱利用にあつてのガイドライン改訂増補版」
<https://www.env.go.jp/content/900511115.pdf>

・環境省水・大気環境局二〇二一「地中熱利用システム」
<https://www.env.go.jp/content/900545109.pdf>

・経済産業省二〇二二「電力需給対策に〈つと〉」
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/pdf/053_03_02.pdf

・国土交通省二〇〇五「国土数値情報」
https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W09-v2_2.html

・国土地理院二〇一七「基盤地図情報」
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>

・静岡県二〇一三「富士山の豊かな地下水を未来に引き継ぐために」（静岡県環境衛生科学研究所）

・静岡県二〇一五「富士山周辺地域における地下水熱利用の手引き」（静岡県環境衛生科学研究所）
<https://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-020/chikasui/documents/tebiki.pdf>

・静岡県二〇一六「震災時における湧水活用マップの作成」（静岡県環境衛生科学研究所）

・（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構二〇〇三「マイクロ水力発電導入ガイドブック」

・北海道大学地中熱利用システム講座二〇〇七『地中熱ヒートポンプシステム』（オーム社）

・吉岡真弓・内田洋平・與田佑季・藤井光・宮本重信二〇一〇「地中熱利用適地の選定方法その2 地下水流動・熱輸送解析を用いた熱交換量マップの作成」（『日本地熱学会誌』三二巻四号、二四一―二五一頁）

・NPO法人地球の未来二〇二三「螺旋式ピコ水力発電装置ピコピカ」
<http://earth.org/pikoweb/index.html>

第二章第七節

・岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編二〇二〇『静岡の大規模自然災害の科学』（静岡新聞社）

・富士山火山防災対策協議会二〇一五「富士山火山広域避難計画」
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanbousai.html>

・富士山火山防災対策協議会二〇一六「富士山噴火時避難ルートマップ」
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanbousai.html>

・富士山火山防災対策協議会二〇二一「富士山ハザードマップ」（令和三年三月改定）
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanbousai.html>

・富士山火山防災対策協議会二〇二二「富士山火山広域避難計画検討委員会中間報告」
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanbousai.html>

・富士山ハザードマップ検討委員会二〇〇四「富士山ハザードマップ検討委員会報告書」
https://www.bousai.go.jp/kazan/fuji_map/index.html

・富士宮市二〇二二「富士宮市富士山火山避難計画」
<http://www.city.fujinomiya.lg.jp/sp/citizen/hosmo000000bzmr.html>

資料の出典および提供者

〔執筆者や富士宮市の提供したものについては省略〕

第一編

図番号	出典・提供等
図1-1	スーパード地形を使用 https://www.kashimi3d.com/online/superdemapp/
図1-2	地質は産業技術総合研究所のオープンデータ、陸域の背景図は地理院地図を使用 産業技術総合研究所地質調査総合センター 地質情報データベース https://www.gsi.jp/researches/geodb/ 国土地理院陰影起伏図 https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/hillshadem.html
図1-4	イラストは萩原佐知子氏作成
図1-9	松原典孝氏による
写真1-2	松原典孝氏提供
写真1-3	松原典孝氏提供
写真1-4	松原典孝氏提供
図1-12	国土地理院地図を加工
図1-13	西村昭・湯浅真人(一九九二)『伊豆・小笠原弧のスマスリフトー海洋性島弧における背弧リフトの形成の一例ー』(『地球科学』四五巻五号、三三三ー三四四頁)図七
図1-14	松原典孝氏による
図1-17	狩野ほか(二〇一九)を一部改変 背景の地形陰影図は国土地理院 50m-mesh 数値標高モデルを用いて SimpleDEMViewer で作成
図1-18	国土地理院 5m-mesh DEM を用いて SimpleDEMViewer で作成 断面位置は狩野ほか(二〇一九)に基づく
図1-20	狩野ほか(二〇一九)から編図
図1-21	柴ほか(一九九〇)を参考に作図
写真1-12 A	狩野ほか(二〇一九)の図2を一部改変

図番号	出典・提供等
写真1-14 A	阿部ほか(二〇〇二)を一部改変
写真1-14 B	横山ほか(二〇一三)
図1-22	柴ほか(一九九〇)を参考に作図
図1-23	狩野ほか(二〇一九)の図10 A、10 B を一部改変
表1-1	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づいて整理
図1-24	イラストは萩原佐知子氏作成
図1-25	「スーパード地形」を使用 https://www.kashimi3d.com/online/superdemapp/
図1-26	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づく 背景図は国土地理院
図1-27	静岡県高密度点群データから作成 静岡県高密度点群データ：VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山および静岡東部点群データ https://www.geospatal.jp/kan/dataset/shizuka-2021-pointcloud
写真1-18	富士宮市立郷土資料館所蔵
図1-28	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づく 背景図は国土地理院
図1-29	静岡県高密度点群データから作成 静岡県高密度点群データ：VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山および静岡東部点群データ https://www.geospatal.jp/kan/dataset/shizuka-2021-pointcloud
図1-30	背景図は「スーパード地形」を使用 https://www.kashimi3d.com/online/superdemapp/

図番号	出典・提供等
図1-31	静岡県高密度点群データから作成 静岡県高密度点群データ：VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山および静岡東部点群データ https://www.geospatal.jp/kan/dataset/shizuka-2021-pointcloud
図1-32	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づく 背景図は国土地理院
図1-33	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づく 背景図は国土地理院
図1-34	富士火山地質図第二版(高田ほか二〇一六)に基づく 背景図は国土地理院
図1-35	背景図は国土交通省富士砂防事務所作成の赤色立体地図
P53 コラム 絵図	静岡県立中央図書館歴史文化情報センター提供
表1-3	地震調査研究推進本部(二〇一〇)に基づいて作成
図1-36	国土地理院 5m-mesh DEM データを用いて SimpleDEMViewer で作成
図1-37	尾崎ほか(二〇一六)に基づき簡略化
図1-39	現地形との対応関係を示すために、背景に DEM 地形陰影図(国土地理院 50m-mesh DEM データ)に基づき Simple DEMViewer で作成)を用いた
図1-51	カシミール3D使用
写真1-42	富士宮市(一九九五)
図1-52	富士宮市(一九九五)
表3-1	渡邊(二〇〇二)
写真4-2	折井信介氏提供
写真4-3	菅野泰伸氏提供

図番号	出典・提供等
写真4-4	菅野泰伸氏提供
写真4-5	菅野泰伸氏提供
写真4-6	菅野泰伸氏提供
写真4-7	大瀨肇氏提供
写真4-14	佐野匡一氏提供
写真4-16	佐野匡一氏提供
写真4-18	大瀨肇氏提供
写真4-19	佐野匡一氏提供
写真4-21	大瀨肇氏提供
写真4-28	見澤康允氏提供
写真4-29	見澤康允氏提供
写真4-32	石川均氏提供
写真4-38	砂村栄力氏提供

第二編

図番号	出典・提供等
図1-5	背景図は地理院地図（赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許（第3670274号等）を使用）
図1-6	背景図は地理院地図（赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許（第3670274号等）を使用）
図1-7	背景図は地理院地図（赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許（第3670274号等）を使用）
図1-8	背景図は地理院地図（赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許（第3670274号等）を使用）
図1-9	背景図は地理院地図（赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許（第3670274号等）を使用）
写真1-20	日本大学 石川元康氏提供
図2-1	断層分布は産業技術総合研究所のオープンデータ、陸域の背景図は地理院地図を使用（出典は第一編図1-2と同）
図2-2	気象庁 https://www.jishin.go.jp/main/oshirase/20110315_shizuoka.htm
図2-3	電子地形図25000（国土地理院）に加筆
図2-4	航空レーザ計測データ（静岡大学総合防災センター二〇一二）より作成
図2-6	電子地形図25000（国土地理院）に加筆
図2-7	航空レーザ計測データ（静岡大学総合防災センター二〇一二）より作成
図2-8	国土交通省富士砂防事務所平成三二年度富士山南麓航空レーザ計測データを使用
図2-9	多々内（一九七〇）に加筆
図2-10	国土交通省富士砂防事務所データから作成
図2-11	国土交通省富士砂防事務所データから作成
写真2-3	国土交通省富士砂防事務所（二〇一五）

図番号	出典・提供等
写真2-4	国土交通省富士砂防事務所（二〇一五）
写真2-5	国土交通省富士砂防事務所（二〇一五）
写真2-6	国土交通省富士砂防事務所（二〇一一）
写真2-7	駿河国富士郡岩本村文書ならびに富士川交通史料写（国文学研究資料館所蔵）
写真2-9	国土交通省富士砂防事務所
図2-12	富士宮市教育委員会『富士宮市歩く博物館ガイドブック改訂版』（二〇二〇）掲載の図を一部修正
写真2-10	富士山本宮浅間大社所蔵
写真2-20	静岡県富士農林事務所提供
写真2-21	静岡県富士農林事務所提供
図2-22	静岡県 https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_314.pdf 静岡県 https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisan-hazardmap.html 静岡県 https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisan-bousai.html

協力者（五十音順・敬称略）

石川元康、板井隆彦（静岡淡水魚研究会）、折井信介、金川直幸（ふじのくに地球環境史ミュージアム客員研究員）、菅野泰伸（ユーロフィン日本環境株式会社）、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業財団、国文学研究資料館、静岡県富士農林事務所、静岡県歴史文化情報センター、静岡新聞社、静岡大学防災総合センター、東海大学海洋科学博物館・自然史博物館、富士山本宮浅間大社、見澤康允、山宮浅間神社、山本玄珠、横山謙二（NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク）

執筆分担

第一編

■第一章 小山真人（第一節・第四節） 天野一男（第二節）

狩野謙一（第三節・第五節） 村中康秀（第六節）

小林 淳（第六節）

■第二章 饒村 曜（第一節・第二節・第三節）

■第三章 増澤武弘（第一節・第二節・第三節）

■第四章 岸本年郎（第一節・第七節） 黒田貴綱（第二節）

小林信一（第二節） 影山秀雄（第三節）

國領康弘（第四節・第五節） 渋谷浩一（第六節）

第二編

■第一章 小林 淳（第一節）

深澤哲治（第一節・第二節・第三節・第四節・第五節）

松本将太（第六節）

■第二章 小山真人（第一節・第二節・第七節）

土屋 智（第三節・第四節） 松本将太（第五節）

村中康秀（第六節） 小林 淳（第六節）

市史編さん委員

- 委員長 谷川章雄 早稲田大学人間科学学術院教授
副委員長 橋本誠一 静岡大学名誉教授
委員 小山真人 静岡大学未来社会デザイン機構教授
委員 西田かほる 静岡文化芸術大学文化政策学部教授
委員 松田香代子 愛知大学非常勤講師
委員 山田邦明 愛知大学文学部教授

執筆員（自然環境編）

- 天野一男 茨城大学名誉教授・東京大学空間情報科学研究センター客員研究員
影山秀雄 日本野鳥の会南富士支部顧問
狩野謙一 静岡大学名誉教授・防災総合センター客員教授
岸本年郎 ふじのくに地球環境史ミュージアム学芸課長兼教授
黒田貴綱 日本大学生物資源科学部富士自然教育センター技手
國領康弘 静岡県自然環境保護調査委員会委員
小林信一 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教授
小林 淳 静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授
渋川浩一 ふじのくに地球環境史ミュージアム学芸部長兼教授
土屋 智 静岡大学名誉教授・国土防災技術株式会社顧問
饒村 曜 元気象庁予報官・静岡地方気象台長
増澤武弘 静岡大学名誉教授・防災総合センター客員教授
村中康秀 静岡県環境衛生科学研究所環境科学部長

事務局（富士宮市教育部文化課市史編さん室）

- 深澤哲治 市史編さん室長
中野香織 主幹
松本将太 学芸員
小倉 匠 主事
原 悠翔 学芸員
佐野 清 会計年度任用職員

- 駿河湾…2,8,18,21,22,54,56,63,66,87,
126,175,176,177,178,180,202
千居遺跡……………142,153,154,168
先小御岳火山……………6,30
『袖日記』……………178,179
- た** 代官屋敷遺跡……………142,151,152
大規模地震対策特別措置法……………170,174
大正関東地震……………170,172,179
太平洋プレート……………5,6,12
滝戸遺跡…139,140,141,142,148,150,
151,152,153,154,155,158,160,161
タヌキ……………112,114,115,148
田貫湖…33,34,35,108,111,120,125,
126,129,161
田貫湖岩屑なだれ…30,33,35,36,38,46,147
丹沢海底火山……………8,9,12,13,14,15
丹沢山地…2,5,6,8,10,12,14,21,22,26,66
断層崖……………55
地下水熱交換システム……………202,203
柱状節理……………44
吊し雲……………93
天子山地…2,5,6,8,15,18,19,21,27,29,
33,35,40,54,56,57,61,63,66,76,78,87,
88,108,112,114
天然記念物……………37,40,43,44
撓曲……………55,62,63,65
撓曲崖……………55,62,63,65
島弧……………5
外神溶岩流……………45,140
特定外来生物……………111,114,124,126
特別天然記念物……………43,106,112
罫塚……………32,47
トレンチ調査……………55,63,65
- な** 内陸直下型地震……………54,55,176,180
南海トラフ…5,50,54,56,169,170,176
西白塚……………32,37,101,118,132
日沢溶岩流……………50
ニホンジカ……………112,113
ニホンノウサギ……………112,114,115
ニホンリス……………112,114,115
沼久保……………28,60,125
猫沢溶岩流……………42
ノビタキ……………118,119
- は** 背斜……………27,28,65
ハコネサンショウウオ……………124,125
橋上……………168,170,171,182,185
馬蹄形崩壊谷……………30
羽鮒……………23,123,125
羽鮒丘陵…2,18,19,21,22,23,24,27,28,
29,33,40,45,54,57,58,59,60,61,62,63,
64,65,142,146,161,180
ヒガシヒダサンショウウオ……………124,125
人穴……………37,165,166,173
ヒバリ……………117,118
ヒミズ……………109,112
ヒメシロチョウ……………132
ヒメヒミズ……………109
フィリピン海プレート…5,8,12,14,29,54,
65,176,179
フジアザミ……………98,99
富士川河口断層帯…6,7,18,54,55,56,57,
63,64,65,168,180
富士川層群…5,6,15,18,19,21,27,63,
76,182
富士山火山広域避難計画…170,175,204
富士山火山防災対策協議会…170,175,
180,204,206,207
富士山頂…40,78,79,88,90,91,92,93,94,
95,130,161,164,180,187
富士山ハザードマップ…33,170,174,175,
204,206,207
富士山噴火時避難ルートマップ…175,207
富士山本宮浅間大社(浅間大社)…7,43,53,
66,106,116,117,162,166,167,177,178
富士山焼砂押流荒地絵図……………192
フジシロミヤクヨトウ……………109,131
富士宮期…30,31,32,37,40,46,48,72
富士宮扇状地…48,142,143,151,161,
162,163
富士宮メッシュ…79,80,83,84,85,89
富士海苔……………166,196
二子山……………32,47
不動沢溶岩流……………50
ブナ群落……………101
プレート境界型地震…50,54,170,176,179
変動地形……………55,61
宝永火口……………32,52,100
宝永噴火…32,33,50,53,169,170,
171,178
北米プレート……………5,8,176,179
ホシガラス……………109,118,119
ホシチャバネセセリ……………131,132
星山期…30,31,33,37,40,46,48,137
星山丘陵…2,7,18,19,20,21,23,24,26,27,
28,29,33,45,54,57,58,59,61,62,63,64,
65,142,146,148,151,152,153,158,180
星山放水路…7,23,24,62,65,116,117,
169,174,198,199
ポットホール……………40
本門寺用水(北山用水)…194,195,
196,198
- ま** マイクロ水力発電……………201
マグニチュード(M)…56,57,169,170,
174,175,176,177,178,179,180,181
枕状溶岩……………10,11,12
マミジロ……………118
丸ヶ谷戸遺跡……………158,161
万野風穴……………37,43
万野溶岩流……………37,43
御坂海底火山…8,9,10,11,12,14,15
御坂山地…2,5,6,8,10,11,12,21,22,55,
66,78,88
水沼断層……………25,28,60,61,64
身延断層……………55,180
ミヤマハンノキ…98,99,100,118,119
明星山……………23,24,62,63,120,121
無間ヶ谷沢(無間沢)…194,196,197
村山スコリア……………42,139
モリアオガエル……………124,125
- や** ヤマカガシ……………122,123
ヤマセミ……………120,121
山宮浅間神社…48,49,164,165,168,181
ユーラシアプレート……………5,8,176
雪代(スラッシュ雪崩)…168,169,171,
175,186,189,192,193
柚野…40,42,123,125,161,171,172,
174,195
弓沢川……………43
溶岩樹型……………38
溶岩ドーム……………22
若宮遺跡……………148,150,151
湧玉池…7,43,66,106,117



あ 始良Tnテフラ(AT) ……137,138,146
 青沢溶岩流 …… 48,49,164,168
 アオバズク …… 116
 アカハライモリ …… 124,125
 アギトアリ …… 132,133
 安居山断層… 29,54,56,60,61,63,64,65
 安居山低地…23,58,61,62,63,64,65,142,
 151,153,163
 朝霧高原 …… 76,78,102,108,109,
 110,114,116,117,118,119,120,131,132,
 143,160
 アサマシジミ …… 131,133
 アサマフウロ …… 102,103,105
 愛鷹火山 …… 6,27,30
 吾妻鏡 …… 165
 アブラハヤ …… 127,128,129
 安政東海地震 …… 57,169,170,171,
 177,178,179,182,184,185
 天母山溶岩流 …… 46,47
 異常湧水 …… 169,174,175,203
 伊豆・小笠原弧 …… 5,6,12,13
 泉発電所 …… 197,198
 犬涼み山 …… 32,37
 犬涼み山溶岩流 …… 37,165
 猪之頭 …… 38,39,71,88,112,120,125,127,
 153,174,197,202,203
 猪之頭湧水群 …… 66,72
 イノシシ …… 112,113,148
 庵原山地 …… 18,19,21,27,29,54,63
 庵原層群…5,6,18,19,21,26,27,28,29,54,
 57,58,59,60,62,63,64
 入山瀬断層 …… 29,54,56,57,63,64,65
 入山断層 …… 27,28,54,56,61,63,64
 岩淵火山岩類…19,22,23,24,26,27,28,29
 内房… 123,125,143,168,169,171,172,
 173,174,175,178,182
 潤井川低地 …… 59,60,61,62,63,142,
 156,158
 延暦噴火 …… 32
 大倉川農地防災ダム…169,174,198,199
 大沢川 …… 47,48,173
 大沢崩れ …… 39,46,47,72,169,173,186,
 187,188,189,190,191,192,193,196
 大沢スコリア…46,48,137,139,154,155,
 156,160

大沢扇状地 …… 39,72,143,174,186,187,
 188,189,190,192,193
 大鹿窟 …… 112,140,171,172
 大鹿窟遺跡… 42,139,140,141,142,148,
 150,152,168
 オオバン …… 116,117,120
 大宮断層 …… 7,29,54,56,62,63,65
 大宮町大火 …… 172,197
 オカダトカゲ …… 110,122,123
 音止の滝 …… 39,72,73,74,106
 御鬘水 …… 74
 オレンジスコリア… 42,139,140,142,148
 オンタデ …… 98,99,100
か 外来種 …… 102,106,111,114,126,127,
 129,133
 笠雲 …… 93
 風祭川 …… 43,47,156,167
 火山フロント …… 12,13
 火山噴出物 …… 2,136,137,139,141
 化石谷 …… 64
 活断層 …… 6,7,18,39,54,55,56,168,180
 釜口峡 …… 44
 上井出 …… 39,66,118,123,125,169,172,
 173,174,178,193,196
 カモシカ …… 112,113
 狩宿の下馬桜 …… 106,107
 カワアイサ …… 120
 河井清方 …… 179
 カワムツ …… 127,128,129
 岩屑なだれ …… 33,34,38
 神田川 …… 43,171,172,178
 蒲原丘陵 …… 2,5,18,19,21,22,23,24,27,
 28,29,54,57,63,64
 蒲原層 …… 19,21,22,24,27,28,63
 岩脈 …… 10,12,32
 鬼界アカホヤテフラ(K-Ah) …… 137,140,
 141,151,152
 旧期土石流 …… 58,59,60,62,63,64
 櫛形海底火山 …… 8,9,11,14
 元禄関東地震 …… 170,179
 広域テフラ…137,138,139,140,141,142
 降下火砕物 …… 136,137,142
 小田貫湿原 …… 35,36,103,104,105,108,
 123,124,125
 小塚遺跡…142,146,147,148,150,151,152

コバネヒナバッタ …… 109,130,131
 古富士火山 …… 30,66,137
 古富士泥流 …… 19,29,34,57,58
 巨摩山地 …… 5,6,8,14
 小御岳火山 …… 6,30
 境川 …… 169,170,172,182,183
さ 相模トラフ …… 5,8,14,176,179
 鷺ノ田層…19,23,24,25,26,27,28,58,59
 サシバ …… 120,121
 サワギキョウ …… 105
 酸素安定同位体比…69
 地震断層 …… 54,56,180
 静岡県東部の地震…170,175,180,181,204
 芝川断層 …… 27,39,54,56,60,61,63,65
 芝川低地 …… 60,64,65
 芝川溶岩流…38,40,42,44,45,139,140
 浪沢遺跡 …… 156,158
 シマヘビ …… 122,123
 ジムグリ …… 122,123
 下高原遺跡 …… 142,146,147,151
 褶曲 …… 27,28,29,55
 貞観噴火 …… 32,33,50,164,168
 衝突・付加…5,8,9,10,11,12,14,15,21,27
 塩出 …… 169,170,182
 白糸観測所 …… 79,83,84,94
 白糸神代杉 …… 168
 白糸の滝…7,39,40,43,45,58,60,66,72,
 73,74,75,106,107,123
 白尾山 …… 28,62,63
 白鳥山 …… 169,170,171,177,178,182,
 183,184,185
 新期土石流 …… 58,59,61,62,63,64,65
 陣馬の滝 …… 38,106
 新富士火山 …… 19,30,57,65,66,72
 森林限界 …… 96,98,99,100,109,118,
 119,131
 水冷破碎 …… 24
 スコリア…42,46,50,66,98,136,139,
 140,142,153,163,190,191
 須走-a期 …… 30,46
 須走-b期 …… 30,31,32,46,47,48
 須走-c期 …… 30,31,48
 須走-d期 …… 30,31,32,48,50
 駿河トラフ…5,8,14,54,63,170,176,177

富士宮の歴史 自然環境編

History of Fujinomiya
Natural Environment and Society

発行日 令和5年(2023)3月
編集 市史編さん委員会
発行 富士宮市
事務局／教育部文化課市史編さん室
住所／〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地
電話／0544-22-1111 (代表)
印刷 株式会社きうちいんさつ

本書に掲載された文章・図表・写真の無断複製・転載を禁じます。それらの著作権は、特別な表示のあるもの以外は富士宮市ならびに執筆者に帰属します。

© Fujinomiya City 2023 Printed in Japan

No reproduction or republication of this publication is allowed without prior permission.

富士宮の歴史



自然環境編

Natural Environment and Society



静岡県富士宮市